

きずな

2024
秋・冬号
No.29

[特集]

アマチュア・マジシャンの
楽しみと修行の場。ひっきりなしに
舞い込む慰問活動でも大活躍中。

柏市 柏マジッククラブ

[散歩道]

平将門ゆかりの地、手賀沼を巡る散歩道

手賀沼の南、将門大明神を出発し、
平将門ゆかりの地を巡る

アマチュア・マジシャンの楽しみと修業の場。 ひっきりなしに舞い込む慰問活動でも大活躍中。

柏マジッククラブは1988年、マジック大好きな高校教師、渋谷さんによって設立されたアマチュア・マジシャンたちのクラブ。
月に2回の定例会を基本に、年に1回の発表会、年間を通して依頼の舞い込む慰問でも大活躍中。



渋谷剛一さん

現在、会の活動は月に2回の定例会を基本に年1回秋に行われる発表会、その発表会に向けた参加者による練習会などが中心ですが、実は市内の福祉施設や地元イベントなどへの出演依頼が後を絶たず、クリスマスなどの時期などには月に10件ほど

「まだ1〜3期生の方が5〜6人いらっしゃいます」とのこと。

「マジックをやめてしまいます。それではあまりにももったいない。自分はまだマジックが大好きになっていましたし、ならば長く続けることのできる社会人の皆さんにマジックを伝えていきたい、というのがこの会を発足した理由です」と渋谷さん。ただ渋谷さんご自身は会の発足当初からマジックの指導者という立場を続けられ、会長は初代から別の方々が勤めになり、現在もマジックの盟友である鷺野谷由嗣さんがお勤めになっています。

「マジッククラブの生徒は3年たてばみんな卒業して、ほとんどはそ

「マジッククラブの生徒は3年たてばみんな卒業して、ほとんどはそ

「マジッククラブの生徒は3年たてばみんな卒業して、ほとんどはそ

ずっと続けられる
社会人にこそ伝えたい



の出演依頼が無い込むとのこと。取材にお伺いした日も4件の出演依頼が紹介されていました。

「ボランティア団体に登録しているので、老人ホームのデイサービスやマンションで開かれる地域のイベント、子供会など市内のイベントで声をかけていただいています。それぞれ2〜3人の会員が行って技を披露しています。これも良い腕試しの場所になっています」と渋谷さん。

今回取材にお伺いさせていただいたのは月の最初に行われた定例会。市内のホールの広い会場に、二十数名の方が集合しています。

その日は会のスタートが平日の17時であったためシルバー世代の方々が多く見受けられましたが、その4割が女性。渋谷さん曰く「女性の方がしなやかで演技がとてもうまい方が多いですね。男性の方はカッコいいマジックを目指して、つい力みすぎてしまう方もいますね(笑)」。

マジックはタネ半分、演技半分!

「定例会はここに参加するのが楽しいと感じてもらおうのが私の仕事かな、と思っています。楽しいと思って

マジックを披露しあうなど)に充てているとのこと。渋谷さんに伝授されたマジックは、皆さん家に戻られてからもしっかりと練習されているとのこと。そしてその成果を最初に披露するのはたぶんご家族。「実はご家族が一番厳しいお客さんですのでよくよく練習してから見せた方が良いでしょうよ、といつも申し上げています(笑)」と渋谷さん。

自分に一番合ったマジックを発見

年に一度、秋に行われる発表会は毎回450人程度収容できる大きな会場を借りて開催されています。毎回15名程度の会員の方が出演し、ゲストにプロのマジシャンも招いて毎回大盛況。出演者の友人やご家族、親せきなどで100名。そ



やっているとマジックも好きになるし」と渋谷さん。

その日は渋谷さんから「カードの枚数当てマジック」「スカーフから現れるボール」「折りたたんだ紙に消える水」などのマジックが披露されましたが、そのタネが伝えられた時のどよめきや小さな歓声、技を習得するための練習の風景は本当に楽しそう。渋谷さんによるマジックの(何度も繰り返しながらの)丁寧な解説を観た後に、それぞれが自分でマジックを試し、分らないところは仲間同士で教え合い、その間も笑いが絶えません。皆さん目をキラキラさせて、2時間の定例会はあっという間に時間が過ぎていきます。

皆さん、トランプ(通常のものとタネが仕込んだ特別なもの)やマジック用のハンカチやボールはそれぞれ自分のものをご用意されています。



「皆さんはそれぞれ得意、不得意のマジックがあります。お話が得意な人、苦手な人。得意な人はお喋りしながら楽しくマジックを演じていきますし、苦手な人は音楽をかけながらスマートに進めていく。だんだんやっているうちに自分に向いている、好きなマジックが見えてきて、それがまた楽しいんですね」と渋谷さん。新しい方が入会されるのもこの発表会がきっかけであることが多く、興味を持った方に向けてお話し入会の場が用意されていて、若い方も入会されてくることが多いとのこと。

マジックから広がる多くの楽しさ

「マジックを練習し覚えていくことは、人に驚きや夢を与えることが大きな楽しみですが、マジックをやっていることで、それ以外にもいろいろな楽しみがどんどん広がります」と渋谷さんは柔らかな笑顔でさらに言葉を続けます。

「慰問などに出かけて人に喜んでもらう楽しさ。遊びに来たお孫さんをマジックで驚かせる楽しさ。それ以外にも人のマジックを観に出かけて研究する。マジックのタネをショッ



ます。

その日に披露されたマジックに使った道具は、数が多くある場合には皆さんに配布され、手元のタネはどんどん増えている様子。

「実はマジックというのはタネを覚えていくことも大切なのですが、それと同じくらい演じることがとても大切です。マジックを習得される場合、多くの方がタネを覚える方に気を取られて、お客さんにどう見えるのか、その演じる部分が抜けていたりします。この会では演じる部分もちゃんと伝えるようにしています」との渋谷さんのお言葉通り、月の最初の定例会は渋谷さんによるマジック指導、2回目の定例会では演じる練習(お互いに練習してきたマ



プに仕入れに出かける。次回の発表会の衣装を探しに出かける。カードなどマジックの小物を集めるのを趣味にされている方もいて、マジックをやっているだけでいろいろな楽しみがどんどん広がっていきます。もう100円ショップなんてマジック目線で見たらそれこそ宝の山です」マジックを演じ、皆さんに喜んでいただくことは、そのまま自分の楽しみとして何倍にもなって返ってくるものようです。

子供会や福祉施設への出前公演などのご依頼、その他お問い合わせはメールにて。
goshibuy@blue.plala.or.jp

平将門ゆかりの地、手賀沼を巡る散歩道 手賀沼の南、将門大明神を出発し、 平将門ゆかりの地を巡る

柏市や我孫子市の手賀沼周辺には、平将門にまつわる伝説が多く残り、今もさまざまなゆかりの地が存在しています。手賀沼の水と田園、そして自然の風光明媚な風景を楽しみながら、将門の伝説を訪ねる旅を楽しめます。



散歩の出発点、将門大明神(将門神社)

坂を登って行くと横道にある王城通り。この先に平将門 王城の地があります。



将門大明神を出発し、 将門伝説が残る福満寺へ

今回の散歩道は、手賀沼の南側の手賀沼湖畔地域をめぐる約1時間のコース。この地を治めていたと伝えられる平将門ゆかりの地を巡ります。

平将門は桓武天皇のひ孫、高望王(平高望)の三男、平良将の子で、平安時代中期の武将・豪族です。ちなみにこの高望王の長男、平国香から続く伊勢平氏の一族にかの平清盛がいます。

将門は、下総国を本拠地としていたと考えられ、柏市や我孫子市にも平将門に関する数々の伝承が残されています。

出発地点は「将門大明神(将門神社)」。将門の三女の如蔵尼が父のほどの道に戻り、その先の坂を登っていくと、王城通りとこちらも由緒を感じさせる名前の通りがあります。細くくねるその通りの先には「平将門 王城の地」の看板が。その看板越しの視線の先には、小さな森の中に佇む小さな祠のようなものが見えます。看板には「王城を下総国の亭南に建つべし」という記述が見られます。

さて今回の散歩のゴールはこれも将門ゆかりの地「福満寺」です。福満寺は奈良時代の創建と伝えられ「将門伝説」が残る古刹で、境外寺有地には平将門の妾・車ノ前が隠れ住んだという場所に建てられた五輪塔を有するなど、平将門とゆかりの深い寺院です。本堂の右側にある「平将門大明神」の名で平将門が祀られています。



香取神社
本殿の彫り物が見事です。緑の木々に囲まれ佇んでいます。



手賀カフェ
モーニングサービスも好評です。手賀沼を一望するカフェで美味しいコーヒーが楽しめます。



展望台
手賀沼の素晴らしい景色を一望することができる展望台。風が心地よい場所です。



平将門 王城の地
王城の地とされている場所。小さな森の中に祠のようなものがあります。



福満寺(上)
平将門大明神(右)
福満寺は奈良時代の創建と伝えられており、「将門伝説」が残る古刹です。境内には将門ゆかりのものも多く残されています。

霊を収めるべくこの地に祠を祀ったのが始まりとされる場所で、将門がまつられた神社は総檜材・寄棟片流れ造・破風構えの造りで各壁面には精巧な彫刻が施されています。

将門大明神を出発し、少し緩やかな登坂になった将門通りを南へ。しばらく住宅地が続きT字路にぶつかります。

これを右折、あとは手賀沼の外殻に沿うように、内陸部分の道を西に向かつて歩を進めていきます。左右には新しそうな住宅地が並ぶかと思えば、広々とした畑や古い神社が現れたり、新旧の要素が面白いように積み重なっています。

やがて香取神社がある交差点が視界に入ってきます。ここを目印にして進むと手賀大橋に向かう大通りに出ますが、休憩がてら立ち寄り

てみても良いでしょう。

歩を進めていくと急に視界が広がり、道端に広大な落花生畑が広がります。その畑の真ん中の道をさらに進んでいくと、道は小さな山に差し掛かり、T字路となっています。ここを右、手賀沼方面へ。

すると、広い通りに出るその手前に、美しく広々とした芝生に花が咲く素敵な前庭があるカフェがあります。コーヒーやケーキ、クロワッサン、お昼には日替わりランチが楽しめる手賀カフェです。お店最大の特徴はやはりその眺め。美しい庭からは田園の向こうに手賀沼を見渡すことができます。遮蔽物なし！広々と広がる風景と空。最高の空間の中でゆつくりと道草の時間を楽しむのもおすすめです。

さて散歩はさらに続きます。気持ち

ち良く風が吹き渡る田園風景越しの手賀沼を右に感じながらさらに西に向かつて進んでいき、そこから手賀沼湖畔を眺めると、なにやら気になる建造物が目に入ります。

そこは自由なお散歩中。またまた道草です。ちょうど車1台くらいが通れる道を100mほど行くと、すぐに手賀沼湖畔の遊歩道にぶつかります。気になる建物は誰でも楽しめる展望台でした。展望台のデッキの高さは2mほど。しかしそのわずかな高さの違いで目の前に見える手賀沼の風景が驚くほど一変します。静かに波を立てながら広がる青い水面。その向こうに立ち並ぶ街の姿、そしてその上に広がる青空。いつまでもぼんやり眺めていたい風景です。

とは言うものの、散歩に復帰。先

千葉の野に生きる 野花と野草

-13-



暑さがようやく緩み、過ごしやすい季節が到来しました。日常の散歩コースにも、秋の到来を告げるさまざまな草木や野花が現れてきます。その中の一つか二つ、名前や姿を覚えておくと、自然を眺める小さな目的ができて、いつもと違った自然の細やかな風景も見えてきます。

■ ススキ

ススキは日本を中心に生息するイネ科の多年草です。高原や道端などで見られ、秋の到来が感じられます。日本で昔から親しまれている植物で、中秋の名月にはススキとお団子を飾ってお月見するのが定番です。

全国に広く分布するススキは、日本人なら知らない人はいないほど身近な植物の一つです。古くは万葉

集にススキの和歌が数多く収録されています。

ススキは草丈1〜2mほどまで成長します。河川のみならず、日当たりのよい乾燥した所ならいたる所で生育します。

実はススキは古くから神様の依り代と考えられていました。内部が空洞のため、神様の宿り場になると信じられていたのです。また、ススキ



の鋭い切り口は、魔除けになるとも考えられました。十五夜（中秋の名月）にススキを飾るのも、悪霊や災いなどから収穫物を守り、翌年の豊作を願う意味が込められていると言われています。

ススキの花言葉は、「活力」「生命力」「精力」「なびく心」「憂い」「心が通じる」などとてもたくさんあります。特に最初の3つはススキの生命力の強さが源になっていると考えられます。

■ スイカズラ

日本各地から朝鮮半島、中国にかけて分布する常緑低木です。多年草で、草丈は約5mほど。主に日の良く当たる平地、丘陵、低山などで見ることが出来ます。開花するのは夏。花色は初め白く、花の盛りを過ぎると白と黄の花が入り乱れ、甘い香りを放つようになります。スイカズラとは「吸蔓」と書き、「花が甘い蜜を吸う際の唇ととても似ている」ことから付けられたという説もあります。

またスイカズラには「忍冬にんどう」という別名があります。冬でも落葉せず葉を丸めて冬を乗り越えようとしている姿にはいかにも冬を忍んでいるという風情があるためなのでしょう。さらに生薬の忍冬にんどう（藤とう）には、利尿、消炎、解熱、解毒、抗菌などさまざまな作用があると言われ、漢方薬などでも重用されています。

花言葉は「愛の絆」「献身的な愛」。つるでしっかり掴んで離さないことから来たものとも言われています。

